

金 融 動 向

◇銀行券の増勢引き続き鈍化

(金融市場——12月にはいりコール・レートは小幅上昇)

11月中の金融市場をみると、まず銀行券は給与支払資金、月末決済資金等を中心に下旬以降かなりの増発をみたものの、月末曜日の関係もあって月中では1,181億円の発行超と前年(同1,284億円)を若干下回った。

一方財政資金は、食管の支払や交付税交付金等の大口支払集中から月中ではほぼ前年並みの6,423億円の払超(前年同6,433億円)となり、「その他」勘定と合わせて月中の資金余剰は4,538億円(前年4,220億円)に達した。これに対し本行は、短期買入債券売戻し、政府短期証券売却および貸出回収によってこれを調節した。

コール市場は11月は月中を通じて総じて平穩に推移したが、更月後1日からは資金需要最盛期入りから各条件ものとも一律0.25%の上昇をみた(無条件もの8.00%、月越もの8.75%)。

資 金 需 給 実 績

(単位・億円)

| | 45年10月 | 45年11月 | 前年同月 |
|----------|---------|---------|---------|
| 銀 行 券 | 151 | 1,181 | 1,284 |
| 財 政 資 金 | 3,361 | 6,423 | 6,433 |
| 本 行 信 用 | △ 2,287 | △ 4,538 | △ 4,220 |
| 本 行 貸 出 | △ 27 | △ 1,214 | △ 1,111 |
| 外貨手形売買 | 109 | 32 | 13 |
| 債 券 売 買 | — | — | — |
| 債券短期買入 | △ 669 | △ 1,256 | △ 1,177 |
| 円シフト債券買入 | — | — | 555 |
| 短期証券売買 | △ 1,700 | △ 2,100 | △ 2,500 |
| そ の 他 | △ 923 | △ 704 | △ 929 |
| 銀行券発行残高 | 44,450 | 45,631 | 38,992 |
| 本行貸出残高 | 23,927 | 22,713 | 18,019 |

(注) △印……「銀行券」は還収超、「財政資金」は揚超、「外貨手形売買」、「債券売買」、「債券短期買入」、「円シフト債券買入」および「短期証券売買」は売却超。

(通貨——預金通貨の着着き続く)

11月の銀行券平均残高は、前年同月比 +17.5%と9月(同 +18.2%)、10月(同 +17.9%)に続き鈍化傾向を示した。もっとも、11月については前年同月の水準が高かった点を考慮する必要があり、季節調整後の前月比では +1.6%と9月(同 +0.8%)、10月(同 +0.4%)の伸びを再び上回ったが、ならしてみるとひところのような増勢はうかがわれない。

なお、10月末の現金通貨残高は前年同月比 +19.6%とほぼ前月並み(同 +19.5%)の水準にとどまり、季節調整後3か月移動平均値を3か月前と比べてみると、増勢はいくぶん鈍化(年率換算6月 +19.6%、7月 +16.1%、8月 +18.2%、9月 +16.0%)しているよううかがわれる。

預金通貨残高の前年同月比は8月 +15.4%、9月 +16.4%のあと10月は +16.6%とやや高まった。全国銀行通貨性預金の平均残高でみても前年同月比では9月 +17.8%のあと10月は +18.7%、季節調整後前月比では9月 -1.1%のあと10月は +2.8%といずれも上昇しているが、これには一部大手都銀の周年預金運動なども影響しているものとみられ、実勢としては法人企業の手元取りくずしを主体におおむね7～9月の水準と同程度の

銀行券関連指標の動き

| | 前 年 比 | | 前期(月)比増減額 (季節調整済み) | | 現金通貨残高 | 百貨店売上高 |
|----------|----------------|----------------|-----------------------|----------------|----------|---------------|
| | 月 末 平 均 発行高 | 月 末 平 均 発行高 | 月 末 平 均 発行高 | 月 末 平 均 発行高 | の前年 比 | (東京)の 前年 比 |
| 44年 | % | % | 億円 | 億円 | % | % |
| 10～12月平均 | 19.1 | 19.2 | 534 | 499 | 20.9 | 18.8 |
| 45年 | | | | | | |
| 1～3月々 | 19.7 | 19.7 | 659 | 602 | 21.1 | 21.6 |
| 4～6月々 | 18.6 | 19.1 | 504 | 447 | 20.9 | 18.5 |
| 7～9月々 | 18.2 | 18.8 | 648 | 633 | 19.5 | 17.7 |
| 45年 8 月 | 18.2 | 19.1 | 627 | 604 | 18.4 | 15.9 |
| 9 月 | 17.4 | 18.2 | 92 | 348 | 19.5 | 17.6 |
| 10 月 | 17.9 | 17.9 | 748 | 183 | 19.6 | 18.8 |
| 11 月 | 17.0 | 17.5 | 527 | 667 | | |

- (注) 1. 季節調整はセンサス局法による(平均発行高は季節性のはか曜日構成の影響をも調整済み)。
2. 四半期増減は、期中平均残高の増減額の月平均。
3. 百貨店売上高は東京百貨店協会調べ。
4. △印は減。

基調にあるように思われる。

以上の結果、現金通貨、預金通貨を合わせた総通貨の前年同月比伸び率は+17.3%と、ほぼ前月並み(+17.1%)にとどまった。時系列を追ってみると昨年8月から本年5月まで前年比+20%前後の伸びを続けたあと、6月、7月は+18%台と伸びが鈍り、さらに8月以降は+17%前後の伸びにまで低下したわけで、季節調整後の3ヵ月移動平均値の3ヵ月前比でみた伸び率もこのところかなり急速な鈍化を示している(年率換算7月+13.5%、8月+13.1%、9月+11.4%)。

10月の手形交換高は前年比+21.0%と7～9月の水準(同+24.0%)に比べてやや鈍化した。もっとも、季節調整後の前月比は8月+3.2%、9月+0.3%、10月+2.0%とかなりのふれを示しているが、一高一低のうちにも伸び率はやや鈍化傾向にあるものと思われ、この結果預金通貨回転率(全国手形交換高/預金通貨残高)は、預金通貨の伸び悩みにもかわかわらず季節調整後1.87とほぼ8～9

月比横ばいにとどまっている。

(財政資金——引き続き大幅払超)

11月中の財政資金の対民間収支は租税収入が前年を25%上回る大幅な増加を示したが、交付金、食糧、運用部等の大口支払が集中したため月中の払超額は6,423億円とほぼ前年(払超6,433億円)並みの大幅払超となった。

すなわち、租税は、法人税が5～7月期延納分の受入れ好伸もあって前年比3～4割増となったほか源泉所得税も前年比2割強の増加、また酒税(8月庫出し分)は、清酒の値上げ見越しからの庫出し増などから前年を2割強上回るなど、月中4,256億円(前年比+25%)の大幅な揚げとなった。なお8月期決算法人の即納率(半年決算大法人分)は、76.5%と前2月期(73.6%)をやや上回ったものの、前年同期(85.4%)比では低下している。

交付金は、3,950億円の払いと前年比575億円増加し、資金運用部は、輸・開銀等に対する機関貸

預金通貨関連指標の動き

| | 預金通貨残高 | | 流通指標 (全国、前年比) | | 回転率 |
|--------------|----------------------------|----------------|------------------|-------|------|
| | 前期(月)比増減額 (カッコ内は季節調整済み) | 残高の前年同期(月)比増減率 | 手形交換高 | 為替交換高 | |
| 44年 10～12月平均 | 億円 3,556 (2,088) | 21.9% | 20.9% | 6.6% | 1.81 |
| 45年 1～3月 " | 11 (1,062) | 19.8 | 23.5 | 9.1 | 1.85 |
| 4～6月 " | 3,666 (2,534) | 20.4 | 23.0 | 9.4 | 1.84 |
| 7～9月 " | △ 434 (1,270) | 16.6 | 24.0 | 6.7 | 1.85 |
| 45年 7月 | △ 2,290 (2,712) | 18.1 | 24.3 | 8.4 | 1.83 |
| 8 " | △ 793 (557) | 15.4 | 33.6 | 6.9 | 1.88 |
| 9 " | 4,505 (2,071) | 16.4 | 15.8 | 5.0 | 1.86 |
| 10 " | 460 (1,949) | 16.6 | 21.0 | 1.6 | 1.87 |

(注) 1. 預金通貨残高は金融機関要求払預金残高。四半期増減は期中平均残高増減額の月平均。

2. 季節調整はセンサス局法による(手形交換高は季節性のほか曜日構成の影響をも調整済み)。

3. △印は減。

財政資金対民間収支実績

(単位・億円)

| | 45 年 11 月 | | 前 年 比 同 月 |
|---------------|-----------|---------|--------------|
| | 前年同月 | | |
| 純 一 般 | 3,874 | 3,270 | 604 |
| うち租 税 | △ 4,256 | △ 3,438 | △ 818 |
| 社 会 保 障 費 | 533 | 449 | 84 |
| 防 衛 関 係 費 | 328 | 341 | △ 13 |
| 公 共 事 業 関 係 費 | 794 | 756 | 38 |
| 交 付 金 | 3,950 | 3,375 | 575 |
| 義 務 教 育 費 | 753 | 628 | 125 |
| 一 般 会 計 諸 払 | 835 | 815 | 20 |
| 資 金 運 用 部 | 1,064 | 582 | 482 |
| 保 険 | △ 672 | △ 507 | △ 165 |
| 郵 便 局 | △ 93 | △ 263 | 170 |
| 国 鉄 | △ 82 | △ 152 | 70 |
| 電 電 | △ 199 | △ 140 | △ 59 |
| 金 融 公 庫 | 222 | 303 | △ 81 |
| 食 管 | 2,287 | 2,852 | △ 565 |
| 外 為 | 750 | 998 | △ 248 |
| 新 規 長 期 国 債 | △ 488 | △ 687 | 199 |
| 総 収 支 じ り | 6,423 | 6,433 | △ 10 |

(注) △印は揚超。

および自主流通米集荷資金融資を中心に、1,064億円の払超と、前年比 482 億円の大幅払超増となった。

公共事業関係費支払は、月中 924 億円と前年度比 118 億円の増加となったが、予算現額に対する年度初来の累積支払進捗率は前年を若干下回っている。

食管会計は、本年産米買入代金(2,835 億円)の支払を主因に 2,287 億円の大幅払超となったが、前年対比では、米生産調整に加えて、これまでの買入れ進捗による反動などから政府買入れ量が下回ったため 565 億円の払超減となった。

なお、外為会計は、外人証券投資の流入超減、輸入増等による国際収支の黒字幅縮小にもかかわらず、輸入ユーザンスの円資金振り替わり一巡などから 750 億円の払超(前年同、998 億円)となった。

◇企業の資金繰りは引き続き繁忙

10月の全国銀行(銀行勘定)貸出は、月中 2,996 億円増と前年同月(2,171 億円増)比 +38%とかなりの増加となった(月末残高の前年同月比伸び率+16%)。月中貸出増加額を業態別にみると、都市銀行(月中 1,085 億円増、前年同月比 +46%)、長期信用銀行(同 628 億円増、+39%)とも、かなり大幅な伸びとなったほか、地方銀行(同 1,160 億円増、+24%)も、前月に続き比較的高い伸びを示した。

一方、中小企業金融機関では、相互銀行(月中 464 億円増、前年同月比 +52%)はかなりの増加を示した反面、信

用金庫は前年を下回る増加にとどまった(同 441 億円、-29%)が、これは前年の貸出増加が大きかったためである。

なお、全国銀行信託勘定(月中 674 億円増、前年同月比 +49%)は、7～9 月にやや伸び悩んだあと、当月は大幅増加となった。

このように当月は、信用金庫を除き各業態の貸出が前年をかなり上回っているが、これは、都銀等が金融の量的緩和をながめ、期明けの不要資月に当たる当月をとらえて、これまで繰り延べられてきた需資にある程度弾力的に応需したためとみられる。

企業の資金需要は、増産、増販のための前向き

金融機関貸出状況

(単位・億円)

| | | 45 年 | | 45 年 | | |
|----|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | 4～6 月 | 7～9 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 |
| 全銀 | 増 加 額 | 10,781 | 15,445 | 4,053 | 5,606 | 2,996 |
| 国行 | 前年比増減率・% | + 16.0 | + 13.3 | - 0.6 | + 18.7 | + 38.0 |
| 都銀 | 増 加 額 | 5,630 | 7,645 | 1,822 | 2,964 | 1,085 |
| 市行 | 前年比増減率・% | + 9.5 | + 12.9 | + 2.1 | + 13.7 | + 46.1 |
| 地銀 | 増 加 額 | 3,134 | 5,698 | 1,578 | 1,847 | 1,160 |
| 方行 | 前年比増減率・% | + 22.6 | + 10.3 | - 11.8 | + 25.0 | + 24.3 |
| 長用 | 増 加 額 | 1,599 | 1,660 | 534 | 583 | 628 |
| 期銀 | 前年比増減率・% | + 15.9 | + 10.4 | + 20.3 | + 4.2 | + 39.4 |
| 信行 | 増 加 額 | 1,434 | 2,398 | 669 | 802 | 464 |
| 相互 | 前年比増減率・% | + 23.0 | + 6.7 | - 22.7 | + 30.1 | + 52.4 |
| 信金 | 増 加 額 | 2,238 | 3,275 | 852 | 1,094 | 441 |
| 用庫 | 前年比増減率・% | + 44.8 | + 2.9 | - 13.2 | - 3.0 | - 28.7 |
| 全信 | 増 加 額 | 2,001 | 2,268 | 680 | 837 | 674 |
| 国託 | 前年比増減率・% | + 28.1 | + 11.8 | + 12.9 | + 7.1 | + 49.5 |
| 銀勘 | 増 加 額 | 1,856 | | 781 | | |
| 定行 | 前年比増減率・% | + 39.4 | | + 46.6 | | |
| 生保 | 増 加 額 | 1,856 | | 781 | | |
| 命險 | 前年比増減率・% | + 39.4 | | + 46.6 | | |
| 総 | 増 加 額 | 18,313 | 23,387 | 7,037 | 8,341 | 4,576 |
| 計 | 前年比増減率・% | + 22.9 | + 10.9 | - 0.4 | + 15.0 | + 29.1 |

- (注) 1. 太陽銀行普銀化(43/12)、埼玉銀行都銀化(44/4)、太道相互銀行の名古屋信用金庫吸収合併(44/5、合併後中京相互銀行)、三徳信用組合の東洋信用金庫への転換(44/8)および長野県商工信用組合の長野相互銀行への転換(45/4)調整済み(前年比算出に際しては前年にも当該銀行の件数を計上)。
2. 前年比増減率のカッコ内は前年の増減額。

需資、中小企業の設備資金需資、不動産関連需資等に着き、のきざしがうかがわれるものの、引締め期間中に繰り延べられてきた需資が大企業を中心に高水準であること、弱電、合成繊維等をはじめとした業況不ざえ業種からの後ろ向き資金需要

本行「短期経済観測」(11月調査)
による金融機関の貸出態度判断

(回答社数構成比・%)

(1) 大企業

| | 45 年 | | | 46 年 |
|------------|---------------|---------------|--------------|-------------------|
| | 4～6 月 (実績) | 7～9 月 (実績) | 11 月 (実績) | 3 月 まで (予測) |
| ゆるい | 0 | 0 | 0 | 0 |
| さほどきびしくない | 17 | 16 | 21 | 28 |
| きびしい | 83 | 84 | 79 | 72 |
| きびしい — ゆるい | 83 | 84 | 79 | 72 |

(2) 中小企業

| | 45 年 | | | 46 年 |
|------------|-------------|-------------|--------------|-------------------|
| | 5 月 (実績) | 8 月 (実績) | 11 月 (実績) | 3 月 まで (予測) |
| ゆるい | 4 | 4 | 4 | 4 |
| さほどきびしくない | 63 | 61 | 57 | 60 |
| きびしい | 33 | 35 | 39 | 36 |
| きびしい — ゆるい | 29 | 31 | 35 | 32 |

が増加していること、さらに中小企業でも回収条件悪化などから需資が強まっていることなどを背景として、不要資月にもかかわらず高水準のまま推移した。

この間金融機関の貸出態度をみると、金融緩和をながめ、一部には優良取引先に対する弾力的応需、新規取引先の開拓等のきざしもうかがえるものの、総じて資金ポジション面の制約などもあって、従来の慎重な貸出態度をくずしていない。

上記の事情から、企業の資金繰りは引き続き繁忙裡に推移しており、11月時点調査の本行「短期経済観測」によると、大企業、中小企業とも、金融機関の貸出態度については先行き若干の緩和期待を有しているものの、資金繰りについては緩和感はほとんどうかがわれない。また企業間信用も、引き続きかなりの拡大をみており、先行きについても大企業を中心になお拡大するものと見込まれている。

10月の全国銀行実質預金は、月中 2,034 億円減と、減少幅は前年同月 (2,110 億円減) をわずかながら下回った。業態別にみると、都市銀行 (月中 1,088 億円減) は上位行を中心とする周年預金運動

もあって、減少幅は前年同月 (1,368 億円減) を下回ったのに対し、地方銀行は地方公共団体の支払増高に伴う公金預金の流出増や前期末預金台乗せ達成の反動などもあって、月中 793 億円減と減少幅は前年同月 (615 億円減) をやや上回った。

中小企業金融機関では、貸出増加が比較的大幅であった相互銀行が月中 20 億円減 (前年同月 73 億円減) にとどまったのに対し、信用金庫は、融資抑制に伴う債務者預金の取りくずし、土地代金流入の減少もあって月中 316 億円増と前

金融機関実質預金状況

(単位・億円)

| | | 45 年 | | 45 年 | | |
|----------|----------|--------|--------|---------|--------|-----------|
| | | 4～6 月 | 7～9 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 |
| 全銀 国行 | 増加額 | 9,106 | 15,674 | 1,616 | 12,099 | △ 2,034 |
| | 前年比増減率・% | - 4.3 | + 11.7 | + 68.3 | + 3.3 | (△ 2,110) |
| 都銀 市行 | 増加額 | 3,946 | 8,838 | 953 | 6,937 | △ 1,088 |
| | 前年比増減率・% | - 21.2 | + 16.2 | + 444.1 | + 0.4 | (△ 1,368) |
| 地銀 方行 | 増加額 | 4,322 | 5,445 | 371 | 4,079 | △ 793 |
| | 前年比増減率・% | + 4.6 | + 2.5 | - 41.8 | + 8.1 | (△ 615) |
| 相銀 互行 | 増加額 | 1,635 | 2,740 | 592 | 1,313 | △ 20 |
| | 前年比増減率・% | + 7.3 | + 8.1 | - 14.1 | + 6.7 | (△ 73) |
| 信金 用庫 | 増加額 | 2,585 | 3,688 | 875 | 1,608 | 316 |
| | 前年比増減率・% | + 29.4 | + 10.0 | - 26.6 | + 43.3 | - 28.8 |
| 郵貯 便金 | 増加額 | 3,127 | 3,343 | 657 | 589 | 559 |
| | 前年比増減率・% | + 14.5 | + 9.8 | + 10.2 | + 12.9 | + 25.6 |

(注) 1. 計数調整については、金融機関貸出状況の(注)参照。
2. 前年比増減率のカッコ内は前年の増減額。

年同月(443億円増)を下回った。

最近の預金地合いは、個人預金は、営業性個人預金の不振、土地代金の流入減がみられるものの、総じて順調な伸びを示している反面、企業預金は、大企業、中小企業とも不ぞえのまま推移している。

10月の全国銀行(銀行勘定)のポジションは、月中3,011億円の悪化となったが、悪化幅は、前年同月(3,374億円悪化)を363億円下回った。業態別にみると、都市銀行は、1,945億円の悪化と前年同月(2,719億円の悪化)の悪化幅をかなり下回ったが、これは「その他」勘定が円転換の増加等を反映して大幅な資金プラスとなったことが大きく響いている。また地方銀行は、月中785億円の悪化と悪化幅は前年同月(606億円)を上回った。一方相互銀行は、月中145億円の改善と、前年同月

(61億円改善)の改善幅をやや上回り、信用金庫は貸出抑制を映じ月中49億円の改善(信金・全信連合計ポジション)と前年同月(228億円改善)の改善幅をかなり上回った。

10月の全国銀行約定平均金利は、0.007%の上昇と前月(上昇幅0.011%)に続き上昇をみた。これは、長期金利の引上げの影響が尾をひいているのに加え、大企業向けを中心とした決算資金の回収がみられたこと、自主規制金利引下げの実施日が月末日であったため約定平均金利への影響が軽微であったことなどのためである。

業態別にみると、信託銀行銀行勘定(上昇幅0.015%)、長期信用銀行(同0.007%)が長期貸出の利上げを中心に引き続き上昇をみたのをはじめ、都市銀行(同0.006%)、地方銀行(同0.004%)も小幅ながら騰勢を持続した。

◇株式市況は軟弱商状、債券市況は11月にはいり騰勢一服模様

株式市況は、公定歩合引下げ後もさしたる地合いの変化がみられず、11月上旬中は旧ダウ2,100円台のみ合い場面となっていたが、中旬以降は企業業績の不振がいや気されたうえ、目先好材料が出尽くした感などもあって、見送り人氣が強くなり、月末近くには商い閑散のうちに続落、28日には旧ダウ1,993円と半年ぶりに2千円の大台を割り、その後12月月初には米国公定歩合の再引下げなどから小反発をしたものの、12月8日には1,963円と5月27日以来の安値となった。

債券市況は、10月にはいってすでに金融緩和を見越し、持直し傾向をたどってきてい

金融機関資金ポジション動向

(単位・億円)

| | | 45 年 | | 45 年 | | |
|------------------|----------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| | | 4～6月 | 7～9月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 |
| 残 高 (期・月末) | 全国銀行 | △ 36,534 (△ 28,613) | △ 36,938 (△ 29,998) | △ 38,549 (△ 31,939) | △ 36,938 (△ 29,998) | △ 39,950 (△ 33,327) |
| | 都市銀行 | △ 42,268 (△ 32,926) | △ 42,840 (△ 33,556) | △ 42,903 (△ 34,462) | △ 42,840 (△ 33,556) | △ 44,785 (△ 36,276) |
| | 地方銀行 | 4,616 (4,038) | 3,982 (2,873) | 2,639 (2,042) | 3,982 (2,873) | 3,196 (2,266) |
| | 相互銀行 | 1,657 (1,624) | 1,500 (1,285) | 1,691 (1,472) | 1,500 (1,285) | 1,645 (1,346) |
| | 信用金庫・全信連 | 4,128 (4,293) | 4,266 (3,855) | 4,336 (4,368) | 4,266 (3,855) | 4,616 (4,083) |
| 増 減 額 | 全国銀行 | △ 3,837 (△ 3,809) | △ 403 (△ 1,384) | △ 801 (△ 587) | 1,611 (1,940) | △ 3,011 (△ 3,374) |
| | 都市銀行 | △ 4,720 (△ 4,892) | △ 572 (△ 629) | 215 (369) | 63 (906) | △ 1,945 (△ 2,719) |
| | 地方銀行 | 1,497 (1,697) | △ 634 (△ 1,165) | △ 1,292 (△ 1,189) | 1,342 (831) | △ 785 (△ 606) |
| | 相互銀行 | 525 (594) | △ 157 (△ 338) | △ 39 (△ 76) | △ 191 (△ 186) | 145 (61) |
| | 信用金庫・全信連 | 398 (665) | △ 138 (△ 438) | 61 (1) | △ 69 (△ 513) | 349 (228) |

(注) 1. 計数調整については、金融機関貸出状況の(注)参照。

2. ポジション＝(ローン)－(借入金＋マネー)。

3. 増減額の△印は悪化。カッコ内は前年実績。

たため下旬の公定歩合引下げおよびコール・レート
の低下後もさして目だった反発をみせず、11月
にはいつてからは騰勢一服模様となり、月央以降
は都市銀行、事業会社等の売り台頭もあってむし
ろやや弱含み気配となっている(11月末の短期物
＜残存期間6ヵ月前後＞の市中実勢利回りは、
8.6～8.8%と前月末＜8.4～8.6%＞に比べ若干上
昇)。

10月の投資信託についてみると、まず株式投信
は、設定が285億円と前月(280億円)を若干下回

ったものの、解約・償還が138億円(前月127億
円)と引き続き低水準にとどまったため、残存元
本は月中120億円の増加と昨年10月以降引き続き
順調な伸びとなった(昨年10月以降1年1ヵ月間
の増加額1,857億円)。この結果、残高は7,048億
円と42年10月以来3年ぶりに7,000億円台に回復。
なお、運用面では株式への運用がこのところ手控
えられており、10月は半年ぶりに売越し(46億円、
9月買越し112億円)となり、他方コール・ローン
放出は前月減少(23億円)のあと再び増加(10月124

株 式 市 況 (東京市場・第1部)

| | 東 証 株 価 指 数 | | 旧 ダ ウ | | 予想平均 利 回 り | 株 式 1 日 平 均 出 来 高 | 日 証 金 差 引 き 融 資 残 高 |
|---------|---------------|---------------|-----------------------------|-----------------|---------------|------------------------------|---------------------------|
| | 最 高 | 最 低 | 最 高 | 最 低 | | | |
| 45年1～3月 | 185.42(3/31) | 172.43(2/17) | 2,523.75(3/31) | 2,283.68(1/ 8) | 2.81 | 百万株 195 | 億円 1,349 |
| 4～6ヵ | 185.70(4/ 8) | 148.81(5/27) | 2,534.45(4/ 6) | 1,929.64(5/27) | 3.49 | 131 | 971 |
| 7～9ヵ | 161.77(7/31) | 150.06(9/29) | 2,176.99(9/ 9) | 2,020.88(9/29) | 3.87 | 114 | 930 |
| 45年 9月 | 160.02(9) | 150.06(29) | 2,176.99(9) | 2,020.88(29) | 3.87 | 123 | 930 |
| 10ヵ | 156.24(19) | 151.28(3) | 2,133.03(19) | 2,054.34(3) | 3.70 | 132 | 919 |
| 11ヵ | 156.99(4) | 148.96(30) | 2,147.98(9) | 1,990.47(30) | 4.86 | 113 | 889 |
| 11月上旬中 | 156.99(4) | 156.39(5) | 2,147.98(9) | 2,134.16(5) | 3.73 | 171 | 916 |
| 中 | 155.63(11) | 152.79(20) | 2,122.50(11) | 2,064.05(20) | 3.86 | 96 | 885 |
| 下 | 152.80(21) | 148.96(30) | 2,064.98(21) | 1,990.47(30) | 4.86 | 76 | 889 |

(注) 1. 予想平均利回り、日証金残高(月、旬)末。
2. 予想平均利回りは山一証券調べ、全銘柄対象。
3. 東証株価指数および旧ダウのカッコ内は、最高・最低値の月日。

公 社 債 上 場 相 場 (東京証券取引所)

| | | 国 債 | 政 保 債 | 地 方 債 | 利 付 金 融 債 | 一 般 事 業 債 | | 電 力 債 | 加 入 者 負 担 利 付 電 債 |
|---------------------------|------------|--------------|---------|------------|----------------|-------------------------|--------------------------|----------------|---------------------------|
| | | (第 1 回 債) | (電 債 債) | (東 京 債) | (3 銘 柄 平 均) | A 格 債 (5 銘 柄 平 均) | A' 格 債 (8 銘 柄 平 均) | (7 銘 柄 平 均) | (最 近 発 行 5 銘 柄 平 均) |
| 償 還 年 月 | | 48.2 | 47.3 | 47.11 | 47.8～ 49.7 | 47.7～ 51.4 | 47.1～ 52.1 | 48.11～ 51.7 | 53.9～ 55.9 |
| 利 回 り (%) | 45 年 9 月 末 | 7.48 | 8.17 | 8.99 | 9.03 | 8.99 | 8.86 | 8.11 | 9.25 |
| | 10 | 7.51 | 8.20 | 8.93 | 8.94 | 8.93 | 8.81 | 8.10 | 9.23 |
| | 11 | 7.55 | 8.18 | 8.86 | 8.85 | 8.87 | 8.76 | 8.05 | 9.20 |
| 価 格 (円) | 45 年 9 月 末 | 98.00 | 98.45 | 96.95 | 96.02 | 96.46 | 96.94 | 97.31 | 89.93 |
| | 10 | 98.00 | 98.50 | 97.15 | 96.33 | 96.87 | 97.11 | 97.38 | 89.65 |
| | 11 | 98.00 | 98.60 | 97.35 | 96.58 | 96.88 | 97.28 | 97.54 | 89.93 |
| 最 近 の 新 発 債 応募者利回り (%) | | 7.011 | 7.434 | 7.831 | 7.638 | 8.046 | 8.161 | 8.046 | 7.400 |

億円増、コール・ローン残高1,972億円)した。

一方公社債投信は、設定191億円、解約・償還140億円とほぼ前月並みにとどまったため、残存元本の増加もほぼ前月並みの51億円にとどまった。

11月の増資(上場会社有償払込み分)は、49社、839億円と都市銀行等大口増資の集中(富士銀行144億円、三菱銀行144億円等)などから、社数、金額ともに前月(27社、511億円)を大幅に上回り、今年度にはいり、9月(80社、859億円)に次ぐ高い水準となった。

11月の起債(発行ベース、国債・金融債を除く)は841億円と前月を32億円上回った(純増ベースでは396億円、前月比19億円増)。内訳をみると、地方債はほぼ前月並みながら、政保債が18億円増加したほか、事業債もこのところ消化地合いはやや悪化しているものの、発行会社の強い起債増額要請もあって、493億円と前月(前々月比12億円増)に続き15億円増加(うち電力債3億円、一般事業債12億円)した(なお、個人投資家を対象とする電力債の別枠起債分<第3回分、72億円、11月20日払込み>を含めれば、起債総額は913億円)。

10月の金融債純増額は932億円と前月(667億円)比265億円の大幅増加となった。もっとも、この中には自主流通米集荷資金関係の割引農林債発行分(250億円、前月65億円、全額資金運用部引受け)が含まれており、これを除けば680億円と前月比78億円の増加(うち割引債75億円)となる。

起 債 状 況

(単位・億円、カッコ内は純増額)

| | 45 年 | | 45 年 | | |
|------------------|------------------|------------------|-----------------|-----------------|------------------|
| | 4～6月 | 7～9月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 |
| 事 業 債 | 1,342* (616) | 1,395* (633) | 466 (210) | 478 (215) | 493* (213) |
| 電 力 債 | 612* (295) | 618* (290) | 206 (100) | 212 (104) | 215* (98) |
| 一 般 債 | 730 (321) | 777 (343) | 260 (110) | 266 (112) | 278 (115) |
| 地 方 債 | 190 (70) | 230 (114) | 77 (44) | 79 (52) | 78 (47) |
| 政 保 債 | 620 (280) | 720 (129) | 310 (85) | 252 (110) | 270 (136) |
| 計 | 2,152* (966) | 2,345* (876) | 853 (339) | 809 (377) | 841* (396) |
| 金 融 債 | 6,810 (1,603) | 7,097 (1,889) | 2,452 (667) | 2,629 (932) | 2,871 (1,086) |
| うち 利 付 | 2,416 (1,171) | 2,854 (1,190) | 1,035 (419) | 908 (423) | 1,036 (432) |
| 新規長期国債 | 1,200 (1,200) | 700 (700) | 500 (500) | 400 (321) | 500 (500) |
| うち 証 券 会 社 引 受 分 | 91 (91) | 99 (99) | 33 (33) | 32 (32) | 30 (30) |

(注) *印は電力債別枠発行分(6月55億円、8月66億円、11月72億円)を除く。

増 資 状 況

| | 上場会社合計 | | | うち 市場第1部 上 場 会 社 | | |
|----------|--------|-----------|-----------|---------------------|-----------|-----------|
| | 社 数 | 金 額 億円 | 前 年 億円 | 社 数 | 金 額 億円 | 前 年 億円 |
| 45年4～6月 | 65 | 878 | 1,261 | 34 | 785 | 1,181 |
| 7～9月 | 136 | 2,021 | 1,575 | 74 | 1,865 | 1,363 |
| 45 年 9 月 | 80 | 859 | 698 | 40 | 768 | 601 |
| 10 月 | 27 | 511 | 291 | 13 | 478 | 261 |
| * 11 月 | 49 | 839 | 369 | 27 | 765 | 304 |

(注) *印は見込み。